



ボランティア通信「きぼう」

2021年10月号
発行：NPO法人在宅ホスピ
スボランティアきぼう

山梨県北杜市高根町長澤2467-11 電話 090-8455-3264

今年度の具体的な活動計画が決まりました

NPO 法人在宅ホスピスボランティアきぼう(以下 NPO 法人きぼう)は8月25日、山梨県北杜市のNPO 法人きぼう事務局で臨時打ち合わせ会議を開催し、今年度の活動について話し合いました。

つながるサロンやボランティア養成講座は実施日も確定し、コロナ禍で中断していたボランティア活動の一部は準備が整い、活動が本格的に再開します。



熱心に今年度の活動計画を検討する
NPO 法人きぼうのメンバー

打ち合わせ会議での決定事項と継続審議内容(要旨)

決定事項：今年度実施する具体的な活動内容

① 講演会の開催

- ・来年4～7月頃の開催予定で、会場は北杜市のホール施設を確保する。今年12月までに具体的な会場を決める。
- ・講演内容は、最期まで家で暮らせる、北杜にいられることを中心に現場の話とする。

② つながるサロンの開催(サロン・ド・パリアンと同様な内容)

- ・招待する対象者は、一人暮らしの方や、家で療養する方とその家族とし、定員5名とする。
- ・場所はNPO法人きぼう事務局。
- ・毎月1回開催、第3金曜日を定例日とする。9月～12月までは試行期間とする。
- ・第1回は9月17日(金)12～13時で1～2名程度で試行実施する。
- ・東京から参加するボランティアは、前日に川越宅に集合し準備する。

③ ボランティア養成講座の開催

- ・第1回の開催日：11月13日(金)14時～、開催場所：NPO法人きぼう事務局、定員：10名、受講料：無料、講座内容は今後検討。

④ ボランティア通信の発行

- ・年2回発行体制を維持する。
- ・年度内は12月か1月に発行するよう準備する。

※①と③は在宅医療助成勇美記念財団の助成を受けて開催

継続審議事項

手作り活動、グリーンケアの活動

「つながるサロン」第1回が開かれました

つながるサロンは9月17日、NPO法人きぼうの事務局のリビングルームで開催されました。一人暮らしの方や家族を家で介護している方4名と、だんだん会理事長の宮崎和歌子さんが参加してくださいました。コロナ禍での開催のため、ワクチン2回接種済の方に限っての参加で、食事中以外はマスク着用など感染防止対策を万全に行われました。川越厚先生の挨拶に続き、ボランティアが作った料理を食べながら、参加された方々の自己紹介をしていただきました。



食事をとりながら自己紹介する参加者



別室で手作りケーキを食べながら語らう参加者

お食事の後は北杜の自然の景色を楽しめる別室に移って、ボランティアの野本さんの手作りムースケーキと葡萄をいただくティータイムがありました。参加者の皆さんはそのおいしさに驚きながら、お話が弾んで途切れず、予定時間をかなり過ぎましたが、帰り際に「楽しかった」「料理がおいしかった」「また来たい」など、喜んでくださったようです。

北杜市に移転後の最初のサロン、しかもコロナ禍であることから、当初の参加は1～2名程度の予定でしたが、参加を希望する方が相次ぎ、定員の5名の参加者を迎えることになりました。今回は1時間の予定でしたが、お話が大変盛り上がり約2時間の会になりました。第1回を開催したことで新天地での開催の課題も見えてきたので、今後よりよいサロンになるよう、検討していきたいと思えます。次回は10月15日(金)開催の予定です。

ボランティア養成講座 11月13日に開催

在宅ホスピスボランティア養成事業を、11月13日(土)に開催することとなりました。北杜市で最期までご自宅で過ごしたい方、一人暮らしの方、在宅療養中の患者さんやご家族を支えるボランティアを希望する方を対象として、養成講座を開催します。受講生募集のチラシ(右参照)も作成し、実施に向けて準備が進んでいます。

地域で支え合えるボランティアが育つような支援を続けていきます。

※この講座は在宅医療助成勇美記念財団の助成を受けて開催

在宅を支えるボランティア養成講座

受託事業中

私たちと一緒に活動しませんか？

NPO法人きぼうは、高齢者、障害者、生活困窮者など、一人暮らしの方、家族や地域で支え合えるボランティアを育成し、活動の場を提供しています。このボランティア活動を通して、地域社会の活性化に貢献します。

●開催日 令和3年11月13日(土) 14時～16時

●開催場所 NPO法人在宅ホスピスボランティアきぼう事務局
(山梨県北杜市高橋町長澤2467-11)

●参加人数 10人(定員になり次第締め切ります)

●参加費 無料

●申込締切日 令和3年11月5日(金)

●申込方法 氏名、住所、電話番号を添えて、下記申込先に電話またはメールにてお申込みください。

●申込先・問合せ先
NPO法人在宅ホスピスボランティアきぼう事務局
TEL: 090-8455-3264
メール: info@volunteer-kibou.org

この事業はNPO法人、NPO認定事業、NPO認定活動に認定されています。お問い合わせ先: 090-8455-3264

7月21日のボランティア総会で、NPO法人きぼうが北杜市で再出発する宣言をして1か月。8月25日、NPO法人きぼうは動きだした◆1ページに掲げた

今年度の活動計画をご覧ください。9月17日にはサロン・ド・パリアンと同様な「つながるサロン」が実施され、その後も毎月第3金曜日に開催予定です◆11月13日には北杜市でのボランティア養成講座を開催予定。講演会も来年4～7月に開催に向けて準備に入る◆会員の皆さんにいち早く、「きぼう」の活動状況をお知らせしたくて、第10号を編集しました。これから、どんどん活動を広げ、定着を図っていきます。応援よろしくお祈りします。(江口)

「つながるサロン」の開会に寄せて 川越 厚

北杜で「つながるサロンをやろう!」と、今日は東京からボランティアの方が3名来ています。今日来てない方もいらっしゃると思いますが、これからの回にこちらへ来ていただくことになると思います。ボランティア歴が長い方は20年くらいの方もいます。北杜にもボランティア組織があると思いますが、こちらで同じような形で根付いて、我々が蓄えてきたものをこちらの皆さんに少しでも還元できればいいなと思っております。

これから紹介する日野原重明先生は山口出身の明治44年生まれですが、その36年後に僕も山口市内で生まれました。日野原先生は本当にマイペースの方です。105歳になった今でもまだいろいろやることがあるとおっしゃっていて、びっくりしました。

僕は2017年3月3日、日野原先生がお亡くなりになる4か月前にラジオ番組の企画でご自宅に伺いました。30分の対談の予定が1時間半ぐらいになりました。この対談で、日野原先生からはとてもたくさんのお話を教えていただきました。

その中で今日は「みんなで一緒に食事をする」ということとお話します。

皆さんがこちらに越してきた時、連れ合いの方や子供さん、お母さんと来た方もいるかもしれませんが、時間とともに老いて、先に逝かれたということになった場合、共に生きる方がいっしょになくなります。本当に寂しいことだと思います。家族がいないからどうしようかと皆さん悩んで苦しんでいます、そんな時に日野原先生がくださったヒントをお伝えします。

日野原先生の103歳か104歳の誕生日での家族が集まって食事をしている写真をご覧ください。この日野原先生が教えてくださったことは、家族というのは「“一緒にご飯を食べる人”“食卓を囲む人”」だということです。それが日野原先生の家族の定義なのです。そうすると「一人暮らしになっても週に一回、月に一回、一緒にお食事をする、それは家族と同じだ」とそういうことなのではということをお改めして申し上げます。

家族って何だろうな、と考えたときに非常にわかりやすい。今日こうして皆さんと食事を囲むということは、家族の一員だと言えます。

私は在宅ホスピス医という仕事を始めて30年になりますが、20年くらい前から患者さんとその家族を支えるボランティア組織を作り、その方たちが医者、看護師、患者さんと家族の方と一緒に食事をするということをやっと続けてきました。

この北杜でそういうことができるかどうか自信がなかったのですが、幸い私の妻がこういう仲間を作りたいと思っていて、ボランティアの方が賛同してくれました。ここでお食事を一緒にしようと。今日は第1回で、当初は1人ぐらいの参加ではないかと思っていましたが、市民の方が4人も来ていただいて本当に嬉しいです。僕の患者さんも増えて、ここの仲間も増えていくと思いますので、このつながるサロンがますます盛会になることを祈念しています。



日野原重明先生



東京で開催されたサロン・ド・パリアンのクリスマス会の様子